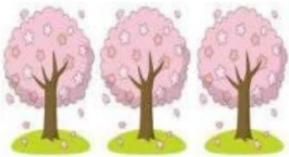


高取小だより

令和7年12月23日



# 三本桜

第35号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子  
12月の目標：交通ルールを守って生活しよう

## 規則正しく 安心・安全な冬休みを

子どもたちが楽しみにしていた冬休みが始まります。14日間の長い休みです。生活リズムを崩さないよう、規律正しく過ごしてほしいと思います。また、インフルエンザ等、感染症の予防に努め、交通安全にも気を付けて、安心・安全な冬休みになりますよう、ご協力をお願いします。ご家庭では次のことをご注意ください。



- 1 「早寝」「早起き」「朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活を心がける。
- 2 交通安全4つの誓いや5つの約束「いか・の・お・す・し」を厳守する。
- 3 大掃除など、家族の一員としての仕事（手伝い）をする。年末年始の行事等を通して、家族の一員としての自覚を深めていく。
- 4 計画を立て、冬休みの課題をやり切る。
- 5 帰宅したら手洗い、手指の消毒、うがい等を行い、感染症対策に努める。

「冬休みのくらし」を配布し、各学級でも指導しています。ご家庭でも確認をお願いします。

## 交通事故・事故への注意

年末年始は、帰省等の車で交通量が多くなる時期です。できるだけ、お子様だけでの外出は控え、保護者の方との外出をお願いします。交通事故だけでなく、他の事故や事件にも巻き込まれることのないように、暗くなる前に帰宅するようにお子様にご指導ください。

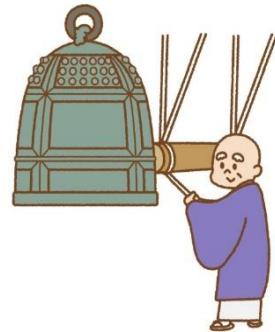


## 除夜の鐘

大晦日の夜遅く、紅白歌合戦が終わって新しい年になる頃、あちらこちらのお寺から、「ゴーン」という鐘の音が聞こえてきます。これが除夜の鐘です。108回、鐘をつくことになっています。除夜の鐘が108回なのは、仏様の教えからきています。

(裏面へ)

人には、つらかったり、悲しかったりすることがたくさんあります。お釈迦様は、どうしたら皆が幸せに暮らすことができるかを考え続けた方でした。そして、人の悲しみや苦しみをよく考えて、大きく4つに分けたり8つ数えたりしました。これを4つの苦しみ（四苦）、8つの苦しみ（八苦）、四苦八苦と言います。もともとは仏教用語ですが、一般的な慣用句にもなっています。



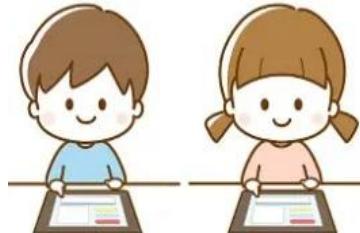
例えば、昔は、四六時中（いつも、二十四時間ずっと）などというように、数字を並べて、かけ算九九にして表すことがありました。それと同じように、四苦八苦の四苦を $4 \times 9 = 36$ （し・く・さんじゅうろく）、八苦を $8 \times 9 = 72$ （はっ・く・しちじゅうに）となぞらえて108と数えました。108という数は、人のつらさや、悲しさ、人の煩悩すべてを表す数なのだそうです。

ですから、お寺では1年の終わりの日に、この1年に起きたよくないこと、悪かったこと、つらいこと、悲しいことなど、煩悩を取り除くことができますように。来年は幸せに暮らせますように、いい年になりますようにという願いを込めて、108回、鐘をつくのだそうです。皆さんにとって、今年1年はどんな1年だったでしょうか。1年を振り返って、よかつたことも、残念ながらそうでなかつたこともあったでしょう。大晦日には、除夜の鐘とともに1年を締めくくり、来年がよい年になりますようにと願い、明るい気持ちで新年を迎えるものです。

私も、改めて除夜の鐘の意味に倣い、一年を振り返り、感謝の気持ちで締めくくりたいと思っています。新年が、皆様にとって、よい年になりますよう、心より願い祈っております。

## NEXT GIGAに向けて

ここ数年で子どもたちの学習環境は大きく変化しました。子どもたちは、学習においてタブレット端末を使うことが当たり前になり、紙のノートや鉛筆と同じような文房具の一つとなっています。また、また、生成AI（人工知能）がロボットやドローンの技術と組み合わされ、さまざまな場面で活用されています。



生成AIがあれば、自分で学習を進めることができるのでしょうか。実は、生成AIが身近になればなるほど、人ととのコミュニケーションがこれまで以上に重要になります。なぜなら、最終的な判断と責任は自分にあるからです。

インターネットで導き出した答えを鵜呑みにするのではなく、「友達と意見を交換し、多様な考え方を知る。情報を活用し、どのように考え、何を表現するか自分で考える」など、これまで以上に考える力や人との関わりが必要になり、対話することが大切になります。

子どもたちもそのうち、ふつうに生成AIを使うようになるでしょう。高取小学校では、単に答えを探すのではなく、タブレット端末を効果的に活用しながら、子どもたちの思考力・判断力・表現力、そして仲間と協働する力を育む授業を実践していきます。また、文部科学省が推奨するGIGAスクール構想の第2期「NEXT GIGA」へと移行しながら、優れた指導方法の共有や教員間のコラボレーションを促進し、学校全体の指導力向上につなげていきます。